

作成日：R4 年 6 月 22 日

令和 4 年度第 3 回 高松圏域自立支援協議会 相談支援部会 議事録

日付	令和 4 年 6 月 16 日(木)
時間	AM9:30~10:50
開催会場	ZOOM、かがわ総合リハビリテーション福祉センター研修室
参加機関等	高松市障がい福祉課、三木町介護福祉課、地域生活支援センターこだま、障害者生活支援センターあい、障害者地域生活支援センターほっと、障害者相談支援センターりゅううん、地域活動支援センタークリマ、支援センターこがも、相談支援事業所ライブサポートセンター、あじの里地域活動支援センター、相談支援事業所ウルカ、相談支援事業所おりがみ、相談支援事業所 EVEN、相談支援センターしのめ、特定非営利活動法人自立ケアシステム香川、社会福祉法人高松市社会福祉協議会障がい者相談支援センター、相談支援事業所 AERU、相談支援事業所ウェルネスサポート、相談支援センターフリーダム、支援センターgaryu、相談支援事業所れいんぼー、みき相談支援センター、障害者生活支援センターたかまつ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計 24 名

議題 1：各事業所、行政からの周知等

議事	<p>○三木町福祉介護課 福祉長寿係より 成年後見制度無料相談会について周知</p> <p>○香川県相談支援専門員協会より 総会開催と入会募集中について周知</p> <p>○次回の相談支援部会 日程変更について周知 7月28日(木)9:30~</p> <p>○主任相談支援専門員養成研修受講者について 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点より 開催要項、選定基準の共有 要件を満たしている受講希望者は申し出て欲しい。</p>
----	---

議題 2：情報交換	
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年度共有した「ホームヘルプサービスを利用する障害者の利用者負担の軽減」について 情報に誤りがあったので訂正したい。 非課税世帯、生活保護受給世帯も対象を共有したが、課税世帯のみ対象となる。 詳細は介護保険制度の担当者にも確認し、7月の相談支援部会にて改めて共有する。</li> <li>・放課後等デイサービスの新規事業所情報について 高松圏域自立支援協議会ホームページで事業所情報を適宜更新しているのを参考にして欲しい。</li> <li>・相談支援専門員の資格について 相談支援従事者現任研修は受講時期のお知らせが個別にくるものではない。自身で管理して受講しなければ失効してしまうので気をつけて欲しい。</li> </ul>

議題 3：計画相談空き状況等	
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規受け入れ状況の確認  年度末から現在にかけて、新規児童相談件数が多い。</li> </ul>

議題 4：研修 地域での災害時対応の実際を知る	
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時 WG の取り組みについて 概要を説明。協議会 HP 内に議事録が公開されていることを共有。</li> <li>○事例① 移動移乗の介助に介護スキルが必要なケース 今回災害時・緊急時対応を考えるにあたり、保健師が支援に加わり災害時要援護者表を作成した。その内容を消防局と情報共有をおこない、移動移乗の介助について知っていただく機会を作ることができた。 災害時だけでなく、同居家族に何かあった時も想定し、119番通報</li> </ul>

もしくは主治医が緊急事態の情報をキャッチした時に支援者に繋げていただく流れを作り共有した。

#### ○事例

災害時の避難は自宅避難を第 1 希望にしているが、自宅が倒壊し避難せざるをえなくなった時を想定し、避難訓練として地域の避難所である体育館へ行った。

避難訓練には本人、家族、日常的に支援している支援者に加え、地域の民生委員も参加された。

避難所までのルートは倒れてきそうなブロック塀や電柱、冠水の恐れのある道など危険箇所を共有しながら進み、学校体育館の中に入れていただき環境の確認や、備蓄等を確認した。また、災害伝言ダイヤルの活用方法を家族、支援者で共有した。

#### 【質問】

・消防局の反応はどうだった？

→指令担当者が来てくれた。介助方法は見るだけではなく、実技もしていただいだけ、所内全員で共有してくれるとのこと。保健師が立てた災害時要援護者表に組み込むことで実現。個別に依頼するわけではない。

・相談する先はお住いの地域の消防局という指定がある？→保健師が災害時要援護者表を作成する時に、同意が得られれば消防局に情報が共有される。相談支援専門員から消防局に依頼したという事ではない。

・どんなケースでも対応してもらえるのか？

→保健師は精神、難病、母子分野はある。難病担当は 1 名で市内全域を対応しているが、母子・精神は複数名市内にいる。対象疾患ある人は専門保健師や地域の担当者を巻き込むのが良いと感じる。

・避難訓練の参加者に民生委員さんもいたが、他にもかけつける近所の人は居るのか？

→近所付き合いのある方たちだったので避難訓練の日も様子を見に

出てきてくださる近所の方が複数いた。だれが駆け付けるということまで決めていないが、気にかけてくれている人が複数いた。

**【感想】**

関わってくれる人を増やすことや、避難訓練をおこなう日程調整だけでも大変だと思う。しかし実際避難所まで歩いてみることでわかることがあると実感できた。

所内で共有はするが進んでいない。1人2人必要な人がいると実感している。具体的な取り組みからリアルにどうするか事業所内で話していこうと思った。

周囲を巻き込んでいくことで、それが拡大していき地域で当たり前になり、向こうから声をかけてくれることもあるかもしれない。限られた人脈ではできない。たくさんの登場人物を作ることがあった。

災害時に備え近所に働きかけること提案しても躊躇される方が多い。何かいい案があれば教えて欲しい。

地域の人にも障害者が避難してくる可能性を知ってもらうことが大切ではないか。災害時パニックの中色んなことが進んで行く。事前に知っておくこと大切だと感じている。

誰に協力してもらえば良いかわからないまま抱え込んでしまっていた。今回の話を聞いて、具体的にどのような繋がりを作ることが選択肢にあるのかを知ることができて良かった。

駐在さんが「どんな人が住んでいる？」と来てくれたことがある。もしもの時はと情報共有した。近所にある消防分署も「避難訓練するならいつでも呼んで」と言ってくれている。巻き込める支援者だと感じている。

参考になる事たくさんあった。研修も次のステップに進めていきたい。